

ヴィヴァルディ盤を聴く(5)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(5)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデルのアナログ盤を聴き直してきました。今回もヴィヴァルディ盤を聴いてみることにしました。

2. ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、バッハのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

今回は、次のヴィヴァルディ盤を聴いていきます

RCA RGC-1033 (日本ビクター)

アントニオ・ヴィヴァルディ 四季
ソチエタ・コレルリ合奏団

CBS Sony FCCA-243

アントニオ・ヴィヴァルディ 四季
ピンカス・ズーカーマン指揮イギリス室内管弦楽団

3. ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴結果

RCA RGC-1033 盤の四季は、ZANDEN のリストでは発売元でいろいろな特性の記載がありますが、国内盤ということで、EMI、R、第4時定数 Low で聴いていきましたが、違和感はありません。イタリアのバロックアンサンブルらしく、明るく華やかで明晰な演奏です。

CBS Sony FCCA-243 の四季は、国内盤ということで、ZANDEN のリストを参考に Columbia、R、第4時 High で聴いていきましたが、違和感はありません。イギリス室内管弦楽団は、バロックアンサンブルではないので、**RCA RGC-1033** 盤のソチエタ・コレルリ合奏団と対照的な切れの良い爽やかな演奏で、ソロヴァイオリン奏者のズーカーマンの勢いのある演奏が際立っています。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンチスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上